



# 田中小だより

平成30年度  
5月号

昭島市立田中小学校 〒196-0014 昭島市田中町三丁目4番地1号 電話：042-543-1511 校長 土屋 正登

## ..... 子供に豊かな体験を .....

校長 土屋 正登

地域に子供の遊び声が響き渡っていた私の子供時代のことです。原っぱや空き地は、子供の文化の創造・継承の場でした。異なる年齢の子供が混じり合っただけで思い思いの仲間をつくり、身近な場や材料をたちまち遊び場や遊び道具に変身させる技を身につけていました。よく遊びもしましたが、けんかもしました。そうした中で、他者へのいたわりや我慢すること、自分を主張すること等を知り、社会性といったものを身につけ、生きる力を蓄えていったような気がするのです。

やがて、社会が大きく変化すると、遊び場や遊び時間が減少して子供同士の関わりも薄くなり、子供の文化が継承されにくくなってしまいました。

現在、子供たちは、「今日遊べる」等と電話で情報交換したり、各種の情報機器を上手に使いこなしたりしています。この点で言えば、かつての子供にはなかったすばらしい特性だと思えます。しかし、多くの方々が指摘するように、人間関係が希薄化した結果、自己抑制力（自分のわがままを抑える）や他者との協調性が欠けたり自分の考えをもつことができないため、指示待ちになりがちだったり等、人間形成の面で、課題があることも事実と言わざるをえません。

田中小では、生き生きと学習している学校、明るく活動している学校、力一杯運動している学校をつくるために、さまざまな体験を重視した教育を推進しています。

学校での体験が地域や家庭生活に生かされ、地域や家庭生活の体験が学校生活に生かされていくことを願っています。

特に体験の中で重視したいことは「感動体験」です。感動体験は、よりよく生きることへの喜びにつながり、しなやかなで逞しい子供に育つ原動力になっていくものと考えます。そのためには、その気にさせる子供への賞賛と、意欲を引き出す励ましが大切だと思うのです。

とにかく子供に期待するあまり、ないものねだりの教育になっていないでしょうか。そのような態度や言葉からは、子供を明るく元気に育てることはできないように思います。一人一人の子供のよさを語り合い、その個性を認め、励ますことを大切にしていきながら、感動することのすばらしさを伝えていきたいものです。

連休など休みの過ごし方を家族で話し合い、意図的に家庭内外で「感動」を得ることのできる体験を計画してみてください。